

「輝く雪」のまち

町治
立田

2014年4月 第57号



みんなの議会

1ねんせい♪♪～



主な内容

- ◎コンパクトな町の大きな予算
一般会計40億円・総額57.6億円 2ページ
- ◎修正動議を否決 予算特別委員会 4ページ
- ◎人口の減少に歯止めを 移住・定住を考える 12ページ
- ◎融雪溝の今後は? 雪環境の見直 13ページ

平成26年 第1回定例会 3月10日～17日

3月10日から17日まで平成26年第1回定例会が行われ、平成26年度一般会計予算40億円などを可決しました。

◎所管事務調査報告

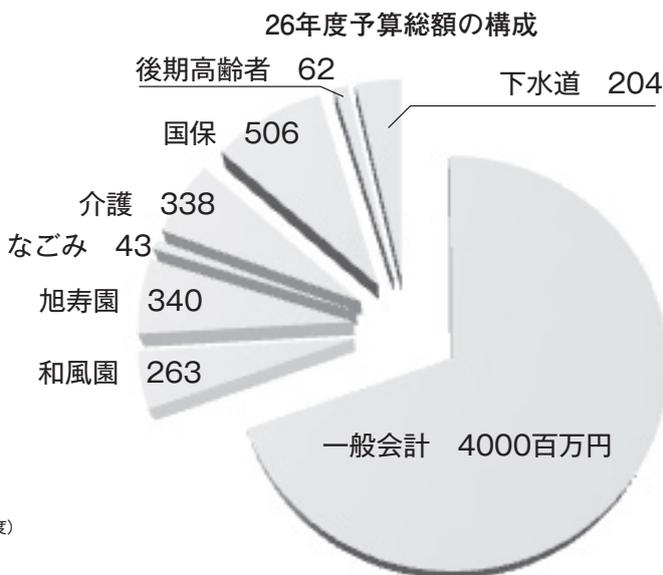
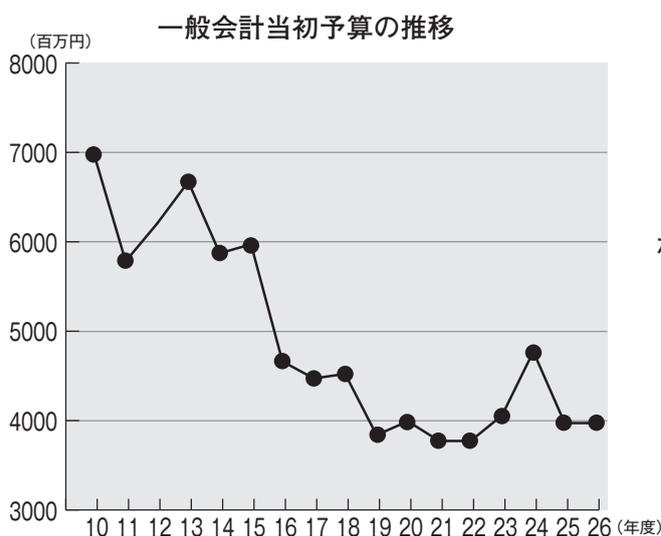
議会の総務民教並びに産建福祉両常任委員会所管事務調査報告があり、委員長報告のとおり了承されました。(詳細12・13ページ)

◎26年度一般・特別会計予算

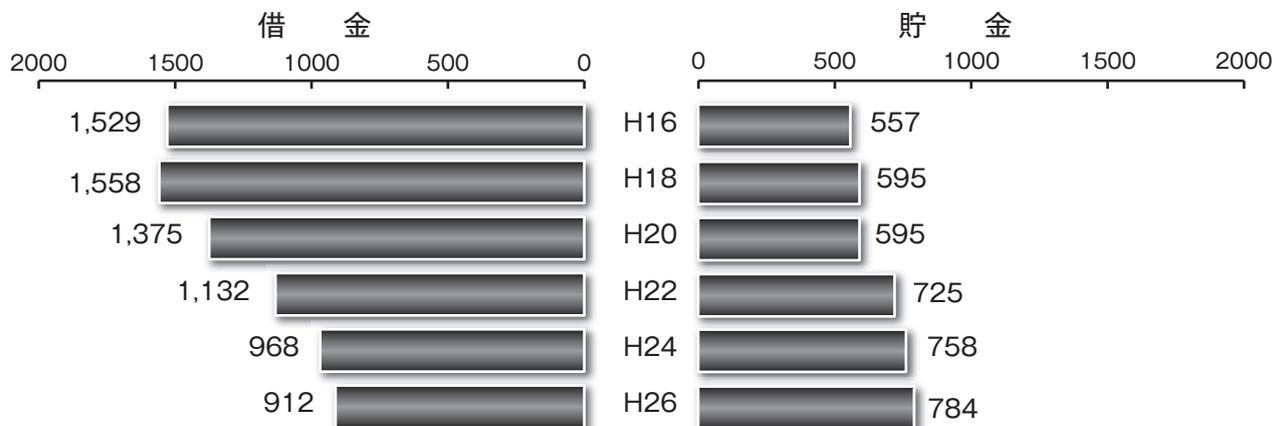
平成26年度一般会計予算など予算9件、条例6件が予算特別委員会(委員長・

津川議員、副委員長・久保議員)に付託され、4日間にわたる審査を経て報告され、原案のとおり可決決定されました(詳細4・5ページ)

26年度 予算 総額57.6億を可決



沼田町の貯金と借金 (一般会計分) 町民一人あたりの残高推移 (決算ベース)



◆ H26 は当初予算時点での年度末見込額
◆ その他の年度は決算額

◆ 基金残高は定額運用基金を除く
◆ 借金は起債残高 貯金は基金残高 単位は千円

シリーズ追跡⑦

平成25年9月高田勲議員の一般質問

問 利子補給はばら撒きか

答 より実効性のある支援を考えたい



農業商工課の回答

平成25年度中に商工会役員と打ち合わせを重ね、26年度予算で「中小企業安定化維持・商店街活性化事業」として400万円を予算計上しました。

これは、人口減少や消費税率の改正などの影響で消費が冷え込む恐れがある中、商工会が主体性をもって、商店街の活性化を図るアイデアを機能的且つ、円滑に事業着手出来るような支援策予算としたものです。

今後、商工会で具体的な事業内容を検討し、商店街のみならず住民にとっても良かったと思える事業を展開していただけることを期待しています。

<事業のイメージ>

- ・ 独自に取り組む、中小企業者の経営安定及び継続に係る事業
- ・ 補助事業に係る自主財源充当
- ・ 商店街の活性化に係る事業（集客事業・短期チャレンジショップ事業）など。

高田議員のコメント

25年度分の緊急利子補給も、形を変えて実施することが出来ました。26年度の安定化・活性化事業は、商工会が永年臨んでいたものです。十分な議論の中で、有効性の高い事業展開を期待しています。

議決された意見書

国の出先機関の拡充を求める

住民の安全・安心を支える国の出先機関は、各地に点在しているからこそその役割があります。

沼田町にも自衛隊や就業支援センターなどの国の機関をはじめ、道の警察署などがありますが、安易に廃止や縮小などをすれば、地域経済にも多大な影響を及ぼします。

拙速な廃止や民営化をしないよう住民の安全・安心を支える「国の出先機関」の拡充を求め、「公務の民営化・独立行政法人化・業務委託化」に反対します。

◎25年度一般・特別会計補正予算

- ・ 誘致企業の事業拡大のための助成2千500万円増。
- ・ 戸籍電算化契約が安く済んだため2千万円減。
- ・ デイサービスセンターのドア改修100万円増。
- ・ 道営圃場整備の工事未了により町負担額2千300万円減。
- ・ 商工業者の利子補給に100万円増。（今回は業況不振の業者のみの支給

としたため、昨年の2割程度の額となりました。）
・ 診療所建設のための基金に5千万円積み増し。
・ 旧沼田農協役員からの寄付700万円。
などが主なものですが、その他に地方交付税の確定や不用額の精査等を行いました。

◎公平委員の選任

・ 田島博幸氏が再任されました。

◎条例改正

- ・ 在宅介護サービス利用奨励手当を5千円から1万円に引き上げました。
- ・ 消費税が3%上昇したことに伴う上・下水道料金

◎機構改革

職員の効率的な配置の為に1室7課体制を1室5課体制に改めました。それに伴い、議会常任委員会条例も一部改正しました。



問席

質問に立つ渡邊議員

第2回臨時会 2月21日

1月の豪雪による除雪費を2千800万円補正増しました。



金平町長の1期目の最後の年となる予算案が議会に提出され、全議員による審議を行った。期間中、町民の関心も高く、予算委員会には珍しい傍聴者も数名が訪れ、熱心に審議に聴き入っていた。

審議の方法は、役場の各課ごとに議会に来ていただき、課の説明を受けた後に議員から質問をする形式で行った。最終日に町長との総括質問を経て、下記の意見書を付して可決した。

克服しよう！



ワークショップを指導するスタジオ・エルの山崎亮・代表。

◆ 予算審査の結果 ◆

新事業が増えている上に、無床診療所化にともなう支援体制など、職員の負担が重くなっていると感じますが、今後も住民の不安を解消するため、沼田町の将来について基本的な情報を町民、議会、職員と共有し、共に課題を克服していけるよう強く望みます。

以上、本委員会に付託された議案第15号から議案第31号までの15件について、4日間にわたり各課長及び関係職員から詳しく説明を受け、慎重に審議した結果、付託された15議案は、いずれも原案通り可決すべきものとして報告致します。

ただし、次の意見を付す。

(1) 無床診療所化にともなう住民の不安の解消

無床診療所化は、町においても介護職員の確保や地域支援対策など、総合的な支援体制が必要です。しかも本件は、「農村型コンパクトエコタウン構想」の中心的課題であり、計画の核となるものです。

よって現在、基本計画の策定のために進めている、町民の声を聴くためのワークショップ形式については、その手法を再考し、より実効性のあるものを望みます。

(2) 事業の効果的なスクラップ

職員増が見込めない中で、新規事業が増え続け、事業のスクラップが進んでいません。町民ニーズに応えながらも、できる限り事業の整理を望みます。

(3) 「子育て満足度日本一」政策

地域提案型まちづくり事業の中の「こども塾」など、まだ目的や内容が明確ではなく、住民への周知が徹底されていない政策が含まれています。より精度を高めつつも、活用しやすい事業を望みます。

修正動議が出されるも 1：5で否決

沼田町に高校が無くなった。移住定住政策や、子育て満足度日本一をめざすのであれば、通学費の全額助成を実施すべきだ。

予算「がんばる高校生応援手当」の一律5千円助成を修正し、J R 定期代（旭川まで）相当額とすべきだ。

下記の反対意見により、否決された。

 災害などのような、緊急性がない。

 町長案は町民のためを思っている。

 むしろ全体の予算は、縮小すべきだ。

 町長は前向きに取り組むと発言した。

 6月定例議会で補正されるはずだ。

平成26年度 予算等審査特別委員会

★ 3月11日～14日

委員長 津川 均
副委員長 久保 元宏

沼田町の将来の基本的な情報を共有し、共に課題を

こんな議論をしました。

予算40億は多くないか



秩父別町は予算28億円で魅力的な政策を実行している。沼田町も身の丈に合う予算の規模にすべきではないのか。

財政課長

主な財源となる国から町への交付税は、面積に比例して配分される。だから面積の広い幌加内町は、さらに交付税が多い。つまり面積によってインフラ整備が必要だから。

基金の枯渇と棚ごい



基金が年々取り崩されるのか。今後は継続できないのか。その一方で、使われない基金もある。



心配している。財源を工夫する。基金を使うためには、一度、一般会計に移したらよい。その方向で検討する。

ポートハーディの交流



今後、「民間交流」から「教育」にするのだが、それだけでは持続的な交流はできない。



ポートハーディに行くには7月に10日間も休まなくてはならない。そんな町民は少ないので、交流も限定されがちなので工夫が必要です。

在宅介護の支援



老人ホーム入居の許容量が限界になる前に、在宅でがんばってもらう必要があるのでは。

保健福祉課長

在宅支援は新年度の重点項目です。

ほたる館の管理の透明化



シダックス大新東への顧客リストなどの引き継ぎはうまく行っているのか。指定管理者になってから、営業や経営内容の説明が議会に対してない。



今年からシダックス大新東の北海道支社が営業を直接するので顧客増に期待してる。



町外業者にも新築助成を



町内の建設会社に新築をオーダーすれば70万円が助成されるが、町外の建設会社であっても下請けが町内の業者である場合が多いので、枠を広げられないか。



町内業者を育成する制度なので、そうすれば主旨が変わる。

中小企業対策費の透明化



予算の内容が大ざっぱで、内容が明確ではない。どのような手法で取り組むのか。



商工会が自由に使える金があったらいいと考えた。「あずけた」のではなく、「種をまいた」。

小学校の追加工事の責任



小学校は新築したばかりなのに、日光が入り暑すぎるので換気扇を取り付ける。設計業者に責任は無いのか。町が全て費用を負担せずに業者にも費用を負わせるべきだ。



設計に、高温で無風時の配慮が欠けていた。今年の7月に請負業者に現地調査をさせる。

農協の新築と店舗



新築される農協にスーパーマーケットが入る調査に、町の予算はどう関わるのか。

商工観光課長

「まちづくり活性化支援事業」で行う。細部が決まるのは、6月。

町長への一般質問

議長を除く全議員が町長と論戦

問 診療所建設を急げ

答 基本計画を策定後、国の答を待つ



高田 勲
議員

問 沼田町では「農村型コンパクトエコタウン構想」の策定中ですが、構想が大きすぎていまだにその具体的スケジュールが判りません。町民と約束した平成27年度からの着工が本当にできるのか。

構想全体を完成させるといふところまでくいちがいが生じます。既存の介護施設経営や介護保険料などのシミュレーションは出来ているのか。

全体のバランスを気にするあまり、急がれている診療所建設が遅れてしまわないか。資金の準備のできている診療所は町独自の判断

として構想とは先行してでも建設すべきではないか。



27年以降建設可能なものから着手したいが、それがどれであるかは答える段階にありません。

国や道も安心して住み続けられる町のモデルとしてこのプロジェクトを進めようとしております。

若干の遅れは生じるかもしれませんが、これだけのものを町単独で行うだけの財源はさすがにありませんのでご理解頂きたいと思えます。

ご指摘のとおり、「診療所」を中心に「デイサービスセンター」「小規模多機能居宅型介護施設」「高齢者生活支援ハウス」などを建てますと、既存施設との競合

が起きますが需要をならみながら補完し合える規模での建設を考えたい。26年度中に国からの答があると思いますので、町財政を見た中で判断します。



病院からクリニックになりました。

役場庁舎から観光プラザに移動した観光協会事務局



問 予算のスリム化をめざせ

答 重点的に事業の見直しをする



渡 邊 敏 昭
議員

問 平成26年度一般会計予算は40億円で、近隣町から見てもとても大きい。人口がどんどん減っていく中で肥大化を避け、コンパクトな身の丈に合った予算にすべきではないか。

診療所などの構想も、国の予算で殆んどできたとしても、その維持管理費だけでも膨大になります。

議員から言うのは本意ではないが、事業の数を減らしてスリムな行政をめざすべきではないか。

一方で、移住定住・婚活事業・特産品販売といった町の命運をかけた事業を職員を出向させてまで観光協会に担わせようとしております。

目の届きづらいところで事業展開ではチェックや

評価が出来なくなるのではないか。



私もこの大きな予算規模がいつまでも続けられるとは思っていません。

事業の廃止・縮小は住民サービスの低下と取られがちでなかなか困難です。

しかし、事業の見直し作業は今年も重点的に行い、スリム化をめざしていきます。

一方で、一般職員の効率的な配置をするために機構改革を実施したいと考えています。

なお、観光協会については出向ではなく、今まで観光ピーアールや特産品販売をバラバラに行っていたものを是正し一本化するために、観光協会事務局を商工会に移動するものです。

観光事業と商工会事業を一体化することによる相乗効果を期待しております。

問 親子で楽しめる公園が出来ないか 答 公園の必要性も含め議論して行きたい



上野 敏夫
議員

問 町内の公園の状況をみると近年までであった、西町公園、すみれ団地公園などがなくなり、既存の公園も遊具も少なく、利用者も少ないようですが、公園があることで子供達がそこで遊びながら、子供どうし、大人ともコミュニケーションがとれて、さらに子供の成長には欠かせない場所です。

これからのまちづくりには屋根付きで小川が流れ、大きなすべり台がある、そのような公園ができないか、近隣町村では町の中にこのような公園が作られ、町民に喜ばれています。
是非、沼田町にも子供達や親子で楽しめる公園を作るべきと思うが、町長の考

えを聞きたい。



園整備の執行はありませんが、既存の公園の維持管理を中心に実施しているのが現状です。

現在、町では郊外も含め16ヶ所の公園を管理しています。
面積で33万3千㎡、年間管理費用2千700万円を支出しています。

現在の管理でかなりの予算額の状態であります。
遊具施設は、本年度より

小学校グラウンドにも設置しています。一般の方にも利用できる健康器具も5台設置してあります。

「新たな公園施設を」と言う考えですが、どのような公園が必要なのか、今回の中学校跡地の農村型エコタウンの中にも、公営住宅なども建てたい考えもありますので、その中にも公園整備もして行きたい、町民

が利用しやすい近間の公園についても、すぐに整備とはなりません、必要性について今後、内部で議論して行きたい。

問 在宅介護と施設介護のバランスはどうか

答 施設サービスを維持しながら在宅介護も維持していきたい



津川 均
議員

問 平成24年度から25年度にかけては12人、23年度から24年度17人介護認定者が増えておりまして、毎年10人以上の認定者が増えております。

今は旭寿園も満床、和風園も満床状態、これから施設介護を希望する人が増えてきた時、介護認定者に対して施設の拡充をすれば当然介護保険料も上がり、行政の負担も大きくなります。

このような状況の中、施設



春を待つ田島公園

設介護、在宅介護をどの程度にするべきか、バランスを聞きたい。

住民負担を考えた時、やはり在宅介護を増やさなければなりません。その為には24時間在宅サービスを受けられるようにし、個人負担が掛かる分を行政で援助する。どの程度まで在宅に援助を、サービス補助をする。施設介護を超えない程度になるか、そのバランスを聞きたい。



介護認定者が増えていく状況は、私の執行方針にも書かせていただいております。今の沼田町の介護保険料は基金



和風園で24時間在宅サービス

からの繰入を行い、3千560円であります。深川市が、3千700円、妹背牛町が4千100円、秩父別町が4千600円ですから私の町は低く抑えております。
今回、在宅介護サービス奨励手当事業という形で拡充しました。自宅で介護をしている家族に対して、5千円から1万円にする提案をさせて頂いております。
施設サービスも維持しながら、在宅介護も維持し、バランスは即答できませんが、包括支援システムを含めて、町民に提案し議論していきたい。

問 総合的かつ一体的な町、農産物のPRを

答 効果的かつ柔軟に取り組みたい

り組みにならないか。



之 範 野 鶴 議員

問 「活めまたステツプアップ事業」で観光協会が一元的に町内特産品、加工場商品、雪中米などの販売や観光の情報発信をする事になりました。

ほかにも、工業製品やその会社の紹介、雪中米、トマトジュースなどは町外ではどこで売られているのか、沼田産ソバは東京ではどこで食べられるのかなど、総合的な情報の発信も必要と考えます。

さらには、こうした商品を扱って頂いている店、会社などと連携した事業展開ができないか。

商工観光課、農業振興課など、他の課を含めて連携のとれた総合的な事業の取



確かにそういったPRが不足していると思います。

観光協会と、町のホームページともリンクさせながら取り組んで、農産物などのPRによって沼田の価値をさらに上げたいと思います。

効果的な仕組みや、様々な問題を含めてトータル的に取り組めるものは柔軟に取り組んでいきたい。



問 パートナー対策の具体的な内容は

答 今やっている事業を継続したい



巳 勝 内 議員

私どもで欠けているのは、商工なり観光なり農業の横の連携とお互いの一体的な取り組みの連絡の欠如だと思います。

それらができるような体制が望ましいと思っていますので十分に検討したいと思います。

問 今までのパートナー

対策については、足踏み状態のように感じている。行政だけで出来るもので

なく、当然JA、各団体にも協力いただき、取り組んでいただきたい。

そこで今年の、この対策は具体的にどのような内容で取り組むのか、お聞きしたい。

また提案ですが、それ単独の、専門の職員を置き、取り組む必要があると思う。

そこで、いろいろなイベン



トを行い、交流の機会を増やすような、創意工夫が必要と思うが、いかがか。



平成12年から23年までは農業実習生受入事業を行い3組が結婚しました。この間の事業費は1千万円です。

それ以前はグリーンパートナー事業で280万円掛けています。

24年からは中山間事業の中で事業を行っています。これはイベント会社と提携して、2年間でそれぞれ2回ずつ、4回行っています。

JAも3ヶ年計画で100万円予算でやっています。今行っている事業を根強く継続していくことも必要です。

問 ふるさと納税を取り込め
答 贈答品を寄付の2割返しにした



中村 保夫 議員

問 自治体に寄付をして
そのお礼の商品をゲッ
トすることが静かなブーム
となっています。

例えば納税者が他の町に
1万円を寄付すると8千円
の税控除が受けられるので、
実質2千円でその町の贈呈
品をもらえる。その商品は
その町の特産品・名産品で、

グレードも値段も高いもの
が頂ける。

寄付を受ける側の沼田町
にとっても、見ず知らずの
人から寄付が送られてきて、
4千円や5千円の商品を贈
ってもお釣りがくる。とい
うものです。

そこで、本町の直近3年
間での「ふるさと納税」に
相当する寄付の件数と総額
はどのくらいか。
沼田町に想いを寄せる高
額寄付もありがたいが、遊
び心の1万円寄付を取り込
んではどうだろうか。



町外からの寄付
は、平成22年度が
18件で23万円。23年度が6
件で140万円。24年度が
5件で15万円。今年度2月
末では29件で41万円です。
今年度になって、町外か



贈答は、特産品の宣伝にもなる

中村保夫議員、そのほかの質問

問 「がんばる高校生応援手当」を増額せよ

答 どこにも負けない増額を図る

らの寄付が多くなったのは、
ご指摘の新聞報道などが原
因かと思えます。
贈呈品は「沼田町ふるさと
とづくり基金寄付者特産品
等贈呈取扱要領」で定めて
おり、おおむね1割返しに
設定してあります。

ご提案のような「5割返
し」は、いかがかと思いま
すが、今年度は2割になる
ように予算組みしました。
ちなみに、沼田町の納税
者が他町に1万円を寄付す
ると、沼田町の税収減は4
320円となります。

問 金平町政、3年間の検証をせよ
答 スケジュールと財源は、これから



久保 元宏 議員

問 町長のやられている
ことは、「スケジュール」
と「財源」と「予算」の3
つが上手にかみ合っていない
のではないのでしょうか。

例えば、去年5月の『医
療説明会』では、「厚生病
院への町の負担は毎年2億
円以上になるので、2年間
で払う4億円で、来春に消
費税が上がる前に、町営の
病院を新築したい。」とお
っしゃられていたのに、8

月の人事異動でも沼田町立
病院の建設準備のメッセー
ジはありませんでした。で
は何をされているのかと言
うと、コンサルタントのス
タジオ・エルの説明では、
「今年の12月まで、住民の
意見を聞くワークショップ
をやりたい」。どうも遅い。
なぜ遅いのか、なぜスケジ
ュールが見えてこないのか、

また、役場の職員が町長
の政策を検証しているの
でしょうか。優秀な職員の苦
労が報われずに、役場がシ
ンクタンクとして機能して
いないのであれば、問題で
す。

また決まってもいない国
からの補助金をあてにして、
大事業を町民に説明しても
説得力が無いから、スケジ
ュールが延びる一方なので
す。



国への提案は、
個別の施設など具
体的にはまだ行っていま
せん。ですから、スケジュー
ルと、裏付けの財源を確保
するのはこれからです。大
きな事業ですから自主財源
だけではできないので、こ
れから国の補助事業などを
精査して決めます。



4月1日、ついに入院
ベッドが無くなった。

**問 鹿の駆除助成金拡充を
答 猟友会と協議していきたい**



長原 誠
議員

問 鹿による農作物の被害対策として、昨年度より更新地区に電牧柵が設置されました。

当地区の農家野皆さんはその効果に期待している所です。しかし電牧柵は圃場への鹿の侵入を防止するのが目的で、鹿の頭数抑制にはなりません。現状増え続ける鹿には猟友会のハンターによる駆除、くくり罠による捕獲に依る所が大事になっています。その中で猟友会に対して町では助成金を出していませんが、銃器の管理費や弾も高額になり実際に掛かる経費の補填には成っていません。また、狩猟免許取得奨励のためにも、鹿の駆除の助

成金を拡充できないか、町長の考えをききたい。



北空知の中でも沼田町は人数も多く、皆さん活発に駆除を行っていただいています。

熊や鹿の駆除に係るパトロールに年間50万円で委託しております。捕獲後の処理も大変なことから、25年度から捕獲1頭につき、5千円の奨励金も交付しております。

どの部分の拡充が必要なのか、有害鳥獣対策委員会、猟友会とも協議していきたい。



鹿の駆除中

傍聴席の生の声

議会傍聴させて頂き各議員さんの有意義な質問、町長の回答なども聞かせて頂き有意義な半日でした。これを機にもう少し町政に関心を持たなければと自覚致しました。若い人達が一生懸命に郷づくりに励んで下さっている。私ども高齢者に出来る事（どんな事が出来るかわかりませんが）があれば、是非協力させて頂きたいと思っています。本日はありがとうございました。

73歳 女性



傍聴席の生の声

沼田町で観光をPRしていきたいということを何度か議題の一つに挙がっていましたが、現在政府がクールジャパン政策を推進していこうとの方向性なので、以前の「すずらん」のように映像作品やマンガなどでPR活動を行って、観光客を取り戻すようなことも必要になるのではないかと思います。

21歳 男性

傍聴席の生の声

26年度第1回定例傍会に参画し聞かせて頂きましたが、議場内のマイクの使用などが下手なのか最後の語尾が聞こえない。質問者、答弁者など気を付けてください。傍聴者の席へ、スピーカーなどの取付てはどうか。

70歳 男性

今回の定例議会の傍聴者は、19名でした。

みなさまの傍聴を待っています。お気軽に、ご来場下さい。

議会の動き

議員セミナー

第1回 総合計画の検証 2月24日



横山政策推進室長を招き、第5次総合計画の検証を行うとともに議論を深めました。

また、菅原商工観光課長と辻総務課長に当面する課題について説明を受けました。



第2回 財政システム 2月26日

辻山財政課長を招き、沼田町財政の在り方について考えを聞きました。

辻山課長は、沼田町在職42年のうち33年間に財政畑で過ごし、多大な足跡を残しました。

私達議員は、多額の基金の存在に安どしておりましたが、その脆弱さを力説していました。

第3回 建設中の農産加工場 2月26日

建設途中にある農産加工場の視察を行いました。初めに工事の進捗状況の説明を受けた後、内部の状況を視察しました。約8億円（内、国費補助7億円）の費用をかけて急ピッチで作業が行われていました。



完成間近の農産加工場



トマトの洗浄機

第4回 完成した農産加工場 4月3日

完成した農産加工場（愛称・北のほたるファクトリー）を視察しました。

最新式の機械設備が機能的に配置され、ここから「沼田ブランド」が発信されると確信しました。

この加工場では、HACCP（ハサップ）システムにより、徹底した衛生管理



雪の貯蔵庫です

HACCPとは
安全な食品を作るための管理基準で国際的に認められたものです。

のもと製品が作られます。今後、従業員教育などのソフト管理が重要になります。

総務民教常任委員会 所管事務調査報告

昨年の4月から今年の3月まで会議を11回、委員
町外への視察を4町で行い、意見書をまとめた。

委員長 高田 勲
副委員長 久保 元宏
委員 中村 保夫
長原 誠
津川 均

移住定住の効果的な進め方

我が町の「移住・定住」政策は、他の町と比較しても高度かつ多彩なメニューを持つ。が、しかし人口は増えてはいない。むしろ沼田町は北空知で最も人口が流出している。ましてや近隣には人口の減少に歯止めをかけたたり、移住による人口増を実現している町もある。効果的な政策が必要だ。



視察先は、結果の出る取り組みを実行。

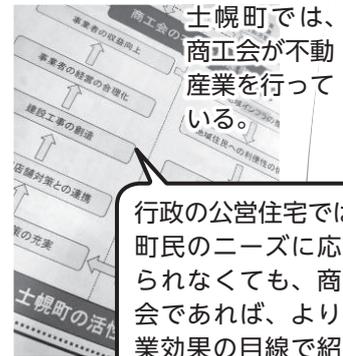
意見書

1) ニーズに合った住宅の提供

沼田町の住宅事情を省みたとき、住宅が充足しているように見えたが、建築から40年以上経過した公営住宅が未だ数多く存在しており、良質な住宅は近年不足していたと判断する。

このことが、生産世代が沼田町に住みたくても条件に合った住宅が無く、沼田町の昼間人口比率が近隣他町に比べて高く推移してきた要因であると思われる。これからは、間取りが限られ入居条件に制限がある公営住宅ではなく、入居者のニーズにあった民間による住宅供給が必要と考える。

建築にあたっての事業者への補助金や、企業が従業員に支給する住宅手当の支援など、近隣他町に例のない施策が必要である。



士幌町では、商工会が不動産業を行っている。
行政の公営住宅では、町民のニーズに応えられなくても、商工会であれば、より営業効果の目線で紹介ができる。

移住者が働く場所を作っていくましよう♪



恵比島の中村旅館は「農民カフェ」に再生。

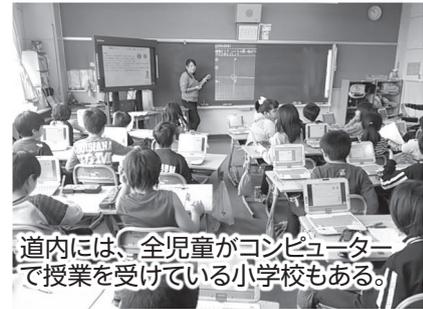
2) 農業や商工業への新規参入と後継者対策

企業誘致が進まない中で、沼田町の基幹産業である農業への新規参入を強力に推し進めることが生産世代の移住促進の近道と考える。

また、農業や商店の後継者不足などを解消するために、意欲のある移住者などが後継者になれる仕組みづくりが必要である。

3) 教育サポートの充実

子育て世代が住居地を決定する大きな要因は、その地域の教育環境である。現在、進めている「認定こども園」構想には、就学前の教育レベルの向上と、一貫連携教育による学力向上が目に見えるような取り組みが必要と考える。また、高校への通学助成の大幅な拡大も検討すべきである。



道内には、全児童がコンピューターで授業を受けている小学校もある。

4) 情報発信の工夫

「移住定住応援施策」「子育て支援施策」「住宅支援施策」などを総合的にまとめ上げ、企業や事業所の協力のもと、沼田町に住むことが可能な人への積極的なアプローチが必要と考える。

ホームページや都会での物販イベントでは、移住定住を求めるターゲットを絞り込み、魅力的なキャッチコピーでPR効果の増大を図ることが重要である。



重要なのは、政策の立案より、政策の実現！

日本テレビが、沼田町の移住・定住を紹介。

産建福祉常任委員会 所管事務調査報告

委員 長 勝己 範之
副委員 長 敏夫
委員 上野 敏昭
津川 均

雪 環 境 の 整 備



本町は、雪と共生するまちづくりを推進してきました。

平成8年には、スノークール・ライスファクトリーが建設され、その後も老人ホーム、生涯学習総合センター、小学校など多くの施設で、「利雪の町・沼田町」をアピールしてきました。

また、市街地区の除雪については平成11年より融雪溝を設置して、沼田町融雪溝管理運営協議会が設立され、延長約2kmの沿線で、より暮らしやすい環境づくりが行われてきました。

しかしながら、融雪溝は運用開始から15年程度が経過し、沿線住民の高齢化と過疎化、商店の減少、空き地や交差点周辺などの投雪困難箇所が増えてきています。

特に高齢化の影響は深刻で、現在は良好に利用されている箇所でも近い将来投雪が困難になることは避けられないと思われます。

利雪においても、近年自然エネルギーが見直される中ではありますが、本町においては今一つ普及が進んでいません。特に、道の大規模長期食糧備蓄基地構想推進協議会が解散してからは、一層そうした傾向が見受けられます。

こうした状況をふまえて同じ融雪溝の課題を抱える町（積丹町、岩内町、倶知安町）の視察と意見の共有を行いました。

「輝く雪の町」沼田町が今後、雪とどの様に共生していくのか、今回の調査結果について次の意見を付し、委員会の報告とします。

意見書

1) 高齢者をはじめ、投雪作業の困難者を支援する何らかの仕組みが必要である。投雪作業を請負う業者委託、機械投雪ができる施設、施設の改良など、作業負荷の軽減を図る必要があります。

また、交差点付近、ドカ雪時には行政を含め、道路管理者の作業分担を再検討すべきと思われる。融雪溝管理運営協議会と十分に協議し、新たなルールを見直すことが必要である。



2) 融雪溝の利用を良好にするには、利用地区と行政間のコミュニケーションを円滑にし、現場での関わりを密にすることが必要である。また、利用者にもより一層の理解を持ってもらうことも重要である。

3) 雪国に住む我々にとって、雪と共生するまちづくりは重要です。雪を観光資源や自然エネルギーとして身近に親しめる取り組みを町民、企業などと共に提案できるよう進めるべきである。



議会議務局長が交替

4月の人事異動で議会議務局長が交替しました。

前任の浅野事務局長は再任になってからは2年間で8年6か月間にわたって議会議務局書記・局長を務めたことになりました。

議会活動に精通しており、議会議員にとっても広報委員会にとっても「頼れる局長」としてありがたい存在

でした。

異動先は住民生活課長です。

今までよりもっと沼田町民と近い職場ですので、更なる活躍を期待しております。

新任の三浦事務局長は「旭寿園」園長からの抜擢です。

20年ほど前に議会議務局書記を務めた経験があり、

経験豊富で、期待も体もおきな事務局長です。



8年6か月勤め上げた浅野局長 ご苦労様



旭寿園から着任した三浦局長 よろしくね

あとがき

ご存知のように日本の行政は議院内閣制度であり、国会議員が総理大臣になります。

ところが地方行政は住民から直接選ばれた人がトップになるいわば大統領制度です。

即ち、総理大臣の交代要員は500人いるけれど、自治体の首長の代わりは一人もいないという制度です。それだけに首長には人事権を含めて大きな権力が与えられています。チエックできるのは同じく住民から選ばれた議員だけということになります。

首長に対して単なる「イエスマン」ではなく、時として毅然と「ノー」を主張できる議員でありたいものです。

改選期まであと1年。3年前に自分の掲げた決意を今一度読み返してみようと思います。

広報特別委員

中村保夫 長原 誠
鵜野範之 久保元宏

みんなの広場

「まとい会」



沼田まとい会 会長 渡部 稔

私が消防に関わったのは、昭和33年6月からです。現在の恵比島で第4分団に所属（現在の第1分団）し、非常勤の運転手助手として入団しました。

当時の沼田町の人口は、2万人を超えており、私の住んでいた恵比島には浅野太刀別鉦山及び昭和炭鉦への分岐点として、留萌鉄道（私鉄）が敷かれており、商業交通網の拠点として活気づいていました。その当時は、山も奥地まで開かれていて、特に山（炭鉦）での災害が多発し、多く多難な時代でもありました。

地区の消防後援会から、町に消防車の購入を要請したところ、中型四輪駆動車（豊田ダンクローザ）の配備をしてもらい、まだ道路が整備されていなく狭路の中でも、災害が発生するごとに大いに活躍してもらい助けてもらったことを思い出します。

顧みますと、私は、51年7ヶ月もの長い間、地域住民の防火思想に溶け込みながらも、平成22年に退団いたしました。

その後、沼田消防職団員OBによる「沼田まとい会」を設立し、現在20名の仲間を集めて、会員相互の親睦を図りながら、進んで社会福祉に貢献すると共に、火災予防の普及徹底を図り、町の発展、地域の防災活動に寄与することを目標に日々活動しているところです。

今後も、町民が安心して暮らせる町づくりを目指し、組織運営に努めていく所存でございます。